

由岐句会

コロナ禍のマスクさまさま去年今年 (中川 秀司)
池の名の残る団地や虎落笛 (住谷 喜舟)
着膨れてますます無精つのりけり (戎谷 久代)
列島の悲鳴のごとし虎落笛(コロナ禍)(戎谷 利公)
紀の国の南端まぶし初日の出 (青山 文夫)
七草の揃わぬ粥もめでたけれ (森本富美子)
天窓に数多の星や虎落笛 (片山宇野代)
均されて臃おぼろの生家跡 (下町 昭)
群青の海引き締めまり寒に入る (森 浄子)

日和佐句会

ものを言う度毎ずれるマスクかな (白河 輝女)
國中がコロナにおびえ寒さ増す (永井 雅代)
磯鴨の来ず金柑の熟れしまま (本庄 潮乃)
初日の出達磨朝日に手を合わす (橋本たかき)
初空やうからの婚儀決まりたり (福井 咲希)
胸の奥覗く思いの古日記 (名田みや女)
初御空一つ加えた歳で見る (勝瑞 高春)

投稿 (俳句)

寒の入しらじらのこる欠けし月 (岡本 真砂)
春の戸を開けてやるよと日脚伸ぶ (張野 浩子)

日和佐短歌会

しだれ梅花の咲くころ予想して枝に紐をかけ木姿なおす (小延 恭弘)
丑年にちなみゆつくり老の坂踏みしめながら歩みてゆかん (栗林 和子)
猫と語り椿が咲けば喜びて老の孤独をわれまだ知らず (本庄たか子)
床の間の掛軸赤富士に替えこころ新たに正月迎う (福井 郁子)

投稿 (短歌)

ウエアのなじんできたる我がチーム鍬もクラブも上手にさばく (下町 昭)

町民文芸のコーナーに掲載を希望される場合は、政策推進課 (☎ 77 - 3616) まで連絡をお願いします。

※原稿は前月の15日前後までに提出してください。

にぎやかそクイズ??

▶問題.....

計画的で安全な漁業をつくるため、「美波の海の恵み研究会」が美波町由岐地区にてワカメなど海藻の試験養殖を行っています。

さて、美波の海の恵み研究会がつくったブランドワカメの名前は何でしょうか？



▶応募方法.....

答え、郵便番号、住所、電話番号、氏名をご記入のうえ、葉書かメールでご応募ください。美波町役場(政策推進課)もしくは由岐支所にご持参いただいても結構です。正解者は、次号の「広報みなみ」に氏名を掲載させていただきます。締め切りは、2月24日(水)です。

▶応募先.....

〒779-2395
徳島県海部郡美波町奥河内字本村18番地1
美波町役場政策推進課 広報担当
E-mail: seisakusuishin@minami.i-tokushima.jp

1月号の答え「5人」
正解者(敬称略)
高木初代(日和佐浦)、西田広一(兵庫県)、一色美汐(奥河内)
谷口夢侑(奥河内)